

## 授業目的・到達目標

担当教員の専門分野は民俗学、文化人類学です。ゼミでは、日々の生活の中で「当たり前」に行っている習慣を改めて見直し、歴史的背景や現代社会に生きる私たちの生活実践の中でその意味を問い直していきます。

具体的には、なぜ日本では予言書がベストセラーになっているのか、なぜ日本では受験シーズンになると受験グッズが出回るのか、なぜ日本人はトンネルや黒髪を恐れるのか、なぜ世界中に異界や幽霊や生霊が存在するのかなどの素朴な疑問から考える力を養い、自明性を疑う俯瞰的な視点を獲得することを到達目標とします。

## 担当教員について

担当教員の主な調査地は沖縄県を中心とした日本です。これまでは、村落祭祀、神々、移住者、シャーマニズム、コミュニティの変容に関する研究を中心に行ってきました。卒業研究のテーマは基本的には自由で、必ずしも沖縄や日本に限定しません。しかし、私たちが今まさに生きている日本のことを知らなければ、世界のことはわかりません。よってまずは現代日本を拠点に考え、その上で世界にも目を向けます。

## 授業計画

- ① 3年春学期は民俗学か文化人類学のテキストで各自レジュメを作成、発表し、読む、書く、話す力をつける。
- ② 3年春学期、夏季休暇中、秋学期に合同・単独でフィールドワークを行い、成果を発表する。
- ③ 3年秋学期からは卒業研究を意識したグループワークを行う。4年春学期から卒論の執筆を開始する。

\* 全体を通し、「読む」、「書く」、「話す」力などを確実に培えるよう指導していきます。

※その分、読む、書く、話す機会が多くなります。

## 成績の評価方法等

次のような学生を歓迎します。「フィールドワーク論」か「生活環境と人間」を受講し当該分野に関心を持っている、基本的なコミュニケーションが取れる、チームワークを大切にできる、力をつけたいという意志とやる気や積極性がある、常識人としてのマナーや判断力がある。

## 過去のゼミ生の卒論

- \* 骸骨の聖母サンタ・ムエルテ―聖母像と骸骨の曖昧性から考察する信仰拡大の理由―  
(2022年度国際関係学部優秀論文賞受賞)
- \* 日常的世界からみる在日韓国系日本人のアイデンティティに関する文化人類学的分析  
(2021年度国際関係学部最優秀論文賞受賞)
- \* スタジオジブリ作品に表れる異界観に関する民俗学的研究(2021年度国際関係学部優秀論文賞受賞)
- \* 静岡県島田市金谷の茶摘み娘の労働と位置付けに関する民俗学的研究―現代の茶摘み娘との比較―(2023年度)
- \* 現代イタリアにおける郷土の食材と料理を守る人々―スローフードとアグリツーリズモの観点から―(2023年度)

## 面談について

- \* 事前にメールで予約を取る。(kimeari@isc.chubu.ac.jp)
- \* 件名に「ゼミ面談希望(学籍番号・氏名)」と書く。
- \* 本文に①面談希望日時(第3希望まで)、②なぜこのゼミを志望するのか、③自己紹介、④興味のあるテーマ、⑤(本紙に書いてあること以外で)質問、を書く。
- \* ポートフォリオを添付する。
- \* 平井ゼミを第一希望とする人は3人の教員と面談終了後、メールで早めに知らせてください。